



中世建築を研究する

ビザンティン建築を 調べ、記録する

かつて東地中海沿岸部に存在したビザンティン帝国は、
現在までこの地域に大きな文化的影響を与えています。

建物内に壁画や銘文が残るビザンティン建築は
一種の総合芸術といえるでしょう。

そんなビザンティン建築を例に、海外の建築遺構を
調査することの楽しさと難しさ、
どういった研究を行っているのかをお話します。



Byzantine
Empire

2024.

5.9

日
曜
日

19:00-20:00 (ゲストトーク)
20:00-20:15 (Q&A)

参加費
無料

【対 象】 どなたでも(学生の方も歓迎)

【セミナー申込】 Zoomウェビナーにてお申し込み

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_U-q_SIO3Sd-V04qBHQ5AEQ

【視 聴 方 法】 Zoomウェビナーにて開催

お申込みされた方にウェビナー視聴URLがメールで届きます。
PC、スマートフォンよりアクセスしてご視聴ください。

【問 合 せ】 名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部 outreach@aip.nagoya-u.ac.jp

ゲスト

ひぐち りょう

樋口 諒氏

名古屋大学 高等研究院 /
大学院人文学研究科 YLC※特任助教

※Young Leaders Cultivation program

1987年生まれ。東京工業大学大学院博士課程修了。博士(工学)。日本学術振興会特別研究員(PD)、日本学術振興会海外特別研究員(ウィーン大学)を経て、2021年より現職。専門は建築史学、特にビザンティン建築。

